

ばらばらで一緒 — 未来へつなぐ宝物 —

本日、修了式では、全校生徒に向けて、学校長から次のことをお話しました。

今日、この修了式という節目を、皆さんと共に迎えられたことを心から嬉しく思います。この修了式は、皆さんがこの一年間で蓄えた「宝物」を確かめる日です。あなたにとって、その「宝物」とは何でしょうか。

先日の卒業式は、まさに美香保中学校にとっての大きな「宝物」となりました。卒業生、在校生、教職員、保護者、地域の方々の思いが一つになり、会場に深い一体感と感動が生まれました。私は皆さんの姿から、この一年間の学びと成長を感じ、心を揺さぶられ、思わず涙がこぼれました。

送辞では、第77期生徒会長の山口さんが、皆さんを代表してこう決意を語りました。「先輩方が築き上げてきた美香保中学校の伝統を、私たちはしっかり受け継ぎます。限界を決めず挑戦し続ける“ブレイクスルー”の思いを胸に、在校生はこれからも一步一步成長していきます。」

それに応えるように、答辞で前生徒会長の佐倉さんはこう語りました。「1、2年生の皆さんの姿は無邪気で明るく、とても愛おしく思っていました。これからもその明るさで学年の壁をなくし、美香保中学校を笑顔の華であふれる学校にしてください。」

「限界を決めず挑戦し続ける“ブレイクスルー”という皆さんの決意。そして、「学年の壁を越えて笑顔の華を咲かせてほしい」という卒業生の願い。その二つが重なり、大きなバトンが確かに引き継がれた瞬間でした。

後輩を迎える準備は整いました。2年生は「憧れの先輩」に、1年生は「頼れる先輩」になると信じています。

しかし、私はその姿を直接見ることはできません。この春、教育委員会へ異動することになりました。最後にどんな話をしようか、ずいぶん考えました。しかし、結局、皆さんに伝えたいことは一つです。それは、入学式で皆さんに話ししてから、繰り返し伝えてきた言葉。そう、『ばらばらで一緒』です。私たちは一人一人違います。外見も、性格も、考え方も、得意なことも、悩みも、みんなばらばらです。でも、それでいいのです。その違いを認め合い、生かし合うとき、人と人は心でつながります。私は、ここにいるみんながみんなの中で自由に自分らしく生きられる「ばらばらで一緒」の学校を皆さんと共に創りたいと願ってきました。

山口さんの言った「ブレイクスルー」とは、新しいことをするだけではありません。自分の限界という壁を越え、学年の壁を越え、自分とは違う誰かと手を取り合いながら、新しい自分たちへ進んでいくことです。

佐倉さんの言った「笑顔の華」も同じです。一本の木に、同じ花は二つとありません。それぞれが自分らしく咲き、隣の花を認め合うからこそ、学校全体が美しい「華の庭」になるのです。

皆さんがこの一年で蓄えた宝物。それは、自分を大切に、他者を大切に、対話を通して前に進んできた、その歩みそのものです。

私は学校を去ります。でも、皆さんの物語はこれからも続きます。物語の主人公は、いつだって皆さん自身です。

皆さんと過ごしたこの2年間。皆さんの成長を間近で見ることができたことは、私の人生にとって「一生に一度」のかけがえのない「宝物」になりました。皆さんが紡いでいく「ばらばらで一緒」の物語の続きを、私は少し離れた場所から、でも誰よりも熱く応援しています。美香保中学校の生徒であることに誇りを持って、堂々と、新しい春を迎えてください。

それでは、これを言うのも最後ですね。いってらっしゃい。